

第4回スタジアム整備のあり方検討委員会 会議録

日 時 平成30年1月9日（火）午前9時30分～11時15分

場 所 県議会棟 1階 大会議室

出席者（順不同）

委員：齊藤（譲）委員、熊谷委員、岩瀬委員、小畑委員、千田委員、金委員、板橋委員、伊藤委員、桂田委員、高橋委員、荒井委員、相場委員、筒井委員、松村委員、渡邊委員、齋藤（一）委員、清水委員、佐々木委員、原田委員、飯坂委員 計20名

○会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - （1）中間報告（素案）について
 - （2）その他
- 4 閉会

○内容

開会

県スポーツ振興課 加藤主幹

県スポーツ振興課吉井振興監あいさつ

新年早々のお忙しいところ、第4回スタジアム整備のあり方検討委員会にご出席いただきありがとうございます。まずは、この検討委員会立ち上げのきっかけともなったブラウブリッツ秋田のJ3優勝をこの委員のメンバーの皆様とともに喜びたいと思います。本当におめでとうございます。来シーズンの連覇にも期待しております。

さて、委員の皆様には、これまで3回にわたり、スタジアム整備のあり方について、整備するとした場合の規模・機能など、様々な問題について具体的にご議論いただきてまいりました。本日は、これまでの議論のまとめとして、検討委員会として提出する中間報告の確認が中心となりますが、併せて、今後のこの会のあり方やスケジュールについても確認してまいりたいと思っております。

なお、前回の検討委員会の中で、かなり様々なことが話題となり、議論がし尽くされたのではないかという意見がありました。事務局としては、新年度に3回開催する予定でありましたが、場合によっては今回の会をもって中間報告ではなく、最終的なとりまとめという選択肢も視野にこの会を進めていただければと思います。もし、委

員の皆様の総意が得られれば中間報告ではなく、最終報告とすることもあり得るのではないかと考えておりますので、それも含めてどうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。最後に、突然ではありますが、事務局からのお願いとして、会に先立ち、岩瀬委員から一言優勝の喜びを報告いただければと思いますがいかがでしょうか。よろしくお願いします。

委員

改めまして明けましておめでとうございます。おかげさまで2017シーズンJ3リーグで優勝を果たすことができました。これも一重にスポンサーの皆様をはじめ、サポーターの皆様、そしてアウェイの鳥取に県民の皆様の思いが届いた結果であると思っております。クラブを代表し県民の皆様に御礼を申し上げたいと思います。

あの瞬間からいろんな思いを巡らせていました。思ったのは、今日もどんよりとした寒空が広がっていますけれども、メディアの皆様の前では何度かお話しておりますが、もしあそこに優勝だけではなく昇格というもう一つの感動があったのであれば、このどんよりとした寒空の三ヶ月間、どうしても気持ちも落ち込んで仕事へのモチベーションであったりの部分で、なかなか難しくなってくると思います。そこに昇格があったのであれば3月には今まで見られなかったJ2が秋田でも見られるんだねというワクワクした気持ちで三ヶ月を迎えていたのではないかと思います、大きなものを逃してしまったのではないかと考えています。ですので、今シーズンは更なる感動を皆様に届けたいという思いで、今は身も気も引き締まる思いでいます。

チーム編成に至っても、選手の流出は最低限2名に抑えることができました。そして今日残り2名、あと1人、残り3名に決まっております。今日明日で発表になりますが、これまでにないキャリアをもった選手達がこの秋田に集まってきてくれます。昨年いた選手達もクラブライセンスの取得を信じてこのチームに残ってくれました。私もそれを信じて皆に伝え残ってくれてもらっています。全選手、全スタッフが秋田のために何とかJ2昇格を遂げたいという思いでおりますので、そこはしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のサポートを、またいただけたらと思っています。

最後になりますが、ただ今ずっと話してきたのはブラウブリッツ秋田のことです。この委員会が始まった当初に私が申し上げたとおり、このスタジアム建設といったものは、ブラウブリッツ秋田のだけためではないといった部分を、もう一度委員の皆様にも再認識いただきたいと思います。これは、待ったなしで秋田に押し寄せている人口減少の問題であったり、いろんな社会問題を克服して秋田の未来を明るくする一つの大きな大きなきっかけになることだということを、皆様には再度認識いただければと。これに異論があるのであれば、他にどういったものが代案としてあるのかと、これ以上のものがあるのであれば、そっちでも良いと思いますが25年間Jリーグが積み重

ねてきた地域活性化、各地域の盛り上がりや各地域での郷土愛であったり、そういったものが全て成功のモデルではないかと思っていますので、恐れることなく皆様とともに、しっかりと一步一步、歩んでいきたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

事務局

委員ありがとうございました。議事に入ります前に、委員の変更がありましたので新任の方をご紹介します。この1月1日に、公益社団法人秋田青年会議所の新理事長に就任されました、筒井崇之委員です。

委員

よろしくお願いします。

事務局

筒井委員、どうぞよろしくお願いします。この後の会の進行は、委員長にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

委員長

改めまして委員の皆さん明けましておめでとうございます。昨年は非常に短い時間だったと思いますが、密度の濃い議論をさせていただきました。本当にありがとうございます。本日の会も後で後悔しないように皆さん思いの丈を報告書に反映できるよう様々な意見をいただきたいと思います。議事に入ります前に私なりの整理をしたいと思います。

スタジアム整備のあり方検討委員会のこれまでを振り返ってみますと、ブラウブリッツ秋田の成績や約18万筆の署名の提出がきっかけであろうと思います。そういうことで始まったわけですが、委員が言われたように、ブラウブリッツ秋田だけのためではなく、秋田のためだよとして、様々な分野の皆様に委員に就任いただきまして議論を積み重ねてきたと思っています。議論いただきました内容については、議事録としてとりまとめ、事務局から委員の皆様へ送付いただいていると思いますが、今回の検討委員会の開催にあたりましては、私も改めて議事録を読み返したところであります。スタジアムに関する情報共有に始まり、スタジアム整備の方向性やコンセプト、そして、施設の規模や機能、建設主体、財源、建設場所など、議論の濃淡はあったにしても本当に多岐にわたる項目についてご議論いただきました。3回目の会の終わりに個人的な意見として、かなりの精度で一定の内容は出たのではないですかと発言させていただきましたけれども、私自身、今でもそのように思っております。

そのような状況の中で、ブラウブリッツ秋田が最終戦に勝利し、見事劇的な勝利を

勝ち取ったことは、県民市民はもとよりスタジアム整備のあり方を検討する当委員にとっても大変喜ばしい快挙であったのではないかと考えています。このオフシーズンの間、いろんなチームに研究されまして優勝チームを倒そうと他のチームは当たってくると思いますが、何とか連覇を目指して外部の要因は整理整頓することを前提に来々シーズンにJ2に昇格していただけるよう頑張っていたいただきたいと、この検討委員会の委員を代表しましてお願いしたいと思います。

※この後、議事に基づき委員長が進行

委員長

それでは議事に入ります。はじめに、報告書（案）について、事務局から説明をお願いし、その後、質問・意見等を伺います。特になければ、委員の皆様から改めて順に報告書について、ご意見を伺いたいと思います。

先ほど、吉井振興監のあいさつの中で、委員会の総意が前提ですが、今回の検討委員会で皆様が良いければこの報告書をもって最終の報告書にすることも事務局としてはやぶさかではないという言葉がありました。そういうことを踏まえまして、そうであったら、これも言いたかったあれも言いたかったということがないようにご意見をいただければ有り難いと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

※中間報告書（案）に基づき事務局が説明。

委員長

ただ今、事務局から報告書（案）について説明がありましたが、事務局の説明に対して、委員の皆様からご意見またはご質問等がございましたら、よろしく申し上げます。

委員

確認ですが、このドーム型開閉式のところで、私の記憶では委員会ではドーム型を推す声が多かったように思うのですが、これは事務局の案ということでしょうか、それとも議論全体としてドーム型はないというまとめなのでしょうか。

委員長

ただ今、委員から屋根の問題で質問がありましたけれども、事務局からまとめ方の考え方を教えてください。

事務局

これまでの検討委員会で出たことをこの報告書としてまとめたものです。事務局の考えというのは極力入れずに、この検討委員会のまとめという形で報告書素案を作成しております。これまでの検討委員会では確かに雪国である秋田の気象条件を考えれば全天候型が望ましいという意見は出ておりました。また一方で、コストを考えていかなければいけないという意見も出されておりましたので、それらを両方考えましてこういった書き方にしております。

委員

ここでもう一度議論すれば良いのですが、私の認識としては前の議事録を読んでもらえれば分かるのですが、ほとんどの方は全天候型が良いと言っていて、一部違う方もいらっしゃいましたが、こういうまとめ方になりますと非常に違和感がありますので、是非、ご検討いただければと思います。

委員

ドーム型というのは私が一番先に言って、その時、ただしお金のことは知らないよと、場所も、でもやるなら将来の事を考えて、雪国だからということで、今、委員が言ったとおり、ほとんどの人がそういう方向性や賛同の意を示す、ただそれはまずお金のことは抜きにして、でもこういうまとめ方にすれば、みんなが途中でいい加減になっているような、行政としてはいつもこういうやり方だ。風をこっちに持っていくような。金が無いというはっきりしたものがあれば良いが、この委員会は最初はそう言ったけれども最後にはこう。だからもう一回聞いた方が良いと思う。お金が無いからこうだとすれば我々、私は反対するものではないが、中途がなくて結論が何処から出てきたのか。おかしいのではないかと思うのもう一度説明を求めるか。議事録残っていると思う。

委員長

今の委員の発言に関し事務局から何かありますか。

事務局

これまでの議論の中で、開閉式可動屋根の修繕費の捻出が困難なため、運用を停止している他県の事例なども事務局からお示ししてまいりましたが、委員の皆様がこういった表現であるところの委員会の総意として全天候型を否定している表現になっているので、そうではなくて建設費のことは、今後考慮しつつも、秋田においては全天候型対応な開閉式ドームが望ましいということが会の総意というのであれば、表現については改めていきたいと思います。

委員長

よろしいでしょうか。

委員

ひとまず、ここで可能性を無くすというのは違うのかなと思っています。開閉式であつたり、これから日本サッカー協会が人工芝をOKするのか、しないのかであつたりも含めての話になると思いますが、秋田の雪の天候だつたりを考えたら、全天候型といったものはベストではあるのかなと。ただ、財源といった部分もありますし、財源はいくらまで出せるのかというのはここで判断されるものではないので、開閉式だつたらいくらかかるのか、その費用対効果はいくらなのかだとか、その辺も含めて判断をしていった方が良いのかなと思います。

一旦、ここで全部を否定するのではなく、要検討材料として引き続きといった部分で良いのではないかと思います。技術革新は、もの凄いスピードで起こっています。各建設会社さんは世界のいろんな海外事例も持っています。私の手元にはいろんな建設会社さんが資料を持ってきますけれども、ガラスよりも透明度の高い膜式のものでドーム型であるけれども開閉式ではなく天然芝が育つようなことも日本の建築基準法でクリアされてきた部分もありますし、いろんな可能性があるので決してここで可能性をゼロにしてしまうのは、また違うのではないのかなと思います。

委員長

今お三方からご意見がありました、他にご意見ございませんか。

委員

報告書18ページの中の表現についてですが、3が中心市街地でのにぎわい創出となっていますが、方向性とすればこの委員会で出す方向として秋田市の市街地が望ましいというのは同意いたしますが、中心というところが、にぎわいの創出にかかっているとは思いますが、場所限定に聞こえてくるところがありますので、15ページの表現と併せて市街地という形で良いのではないのでしょうか。ここが場所の話と繋がるとすれば、あまり限定しすぎるのはどうかなと感じましたのでご検討いただければと思います。

委員長

事務局からの説明に対する意見、確認事項と報告書に対する質問、確認事項が合わさって進められている感じがします。今の話も含めまして、重複しても構いませんが説明等考え方のところで更なる質問がなければ報告書そのものに関するご質問、あるいは内容に対する質疑に入っていきたいと思います。これは忌憚の無いご意見をいた

だきたいと思いますし、全委員の方から意見をいただきたいと思います。最初に委員からお願いしたいと思います。

委員

個人的な認識ですが、この検討委員会というものは、今出た質問でも明らかですが、財源も場所も何も決まっていない中で、スタジアムをどうするかというのを話合っているわけで、そういうものを決定するような場所ではないという認識でずっとまいりました。ですので今回の提言というのも、こうだを書くこともできずに両論併記にならざるを得ないのではないかと思います。

例えば今のスタジアムの屋根の事についても、委員が言われたように可能性を無くさないように併記すると、当然、財源の問題があるので決定の際にはそれも含めて検討するとそうしか表現できないのではないかと思います。それを兼ね併せて私の認識としては、この検討委員会というのは、財源がどこからくるのか分らないですが、例えば秋田の人口減少とか高齢化とか雇用とかそういった様々な問題の中で、スタジアムが必要なんだという風なことを検討する場ではなくて、私の中ではあくまでも前提としては、もしスタジアムを整備するとなった時に、どういったものが考えられるのかという、ある意味前提としては、その上に立っている委員会だと認識してこの場に来ています。ですので、やるかやらないのかというところで、議論がそっちの方向に行ってしまうのはちょっと違うのではないのかなと個人的には思います。

それとの関連で、最後の18ページの提言のところが形としては残ると思いますので、1点意見を申し上げたいと思います。今回の報告書のまとめ方で、目次を見まして、第1章は良いとして第2章はスタジアム整備の方向性に関する意見等、第3章が新スタジアム整備における検討項目ごとの主な意見ということで、検討項目が挙げられていると、そして最後に提言という形になっています。今回の資料にも付いていますが、20ページの要綱を確認しても、第1条の目的で、この委員会の目的はスタジアム整備の基本的な方向性並びにスタジアムを新設又は改修とした場合の整備手法などとなっているわけで、そう考えますと今の原案の提言だと後半部分のみの記載になっているのではないかと思いますので、最後の提言のところにスタジアム整備の基本的な方向性に関する提言も記載する必要があるのではないかと考えています。

その基本的な方向性については、第2章のところでまとめられていますが、どういった文言が適切なのか分らないのですが、4ページに私が申し上げた慎重な意見がありますが、やはり造るという前提で来ているんだけど、決してこの委員会で話したことは、秋田の様々な問題の中でスタジアムを造る事が大事なんだという議論ではないと思っているので、スタジアムを建設することに意義はあると思いますが、主な議論はそうではなくて本当に必要なかどうか、必要でなければ造る必要はないのではないかなというのが私の中では変わっていないので、当然この会の中では積極的に賛

成する意見は出たのですが、そうではない意見もあったということを是非最後の提言のところに書いていただいて、両論併記だと思いますが、当然積極的な意見もあるでしょうし、一方で、財源の問題も含めまして簡単に造れると言えるものではないというところを、提言のところに一文載せる必要があるのではないかと思います。

委員

中間報告書を取りまとめていただき事務局に御礼申し上げます。委員がおっしゃられたように、どういう機能で、どういう場所でというところを、この委員会では決めきれない形で議論をする会であることを前回の話で出されたと認識しております。ただ、2、3点申し上げますと、13ページから14ページのところで、恐縮ですが、13ページの最適な候補地としてはというところの文章、その次の14ページの八橋地区は住宅地に近いということからの、この2つの意見に対する皆さんのご意見が、かなり前回多かったように思っておりますので、ここをどう表現していただくか、場所は決めないというこの会の趣旨にはなかなかバランスは難しいのですが、私個人的には、この2つは前回の話を聞いていますと大きいテーマだったように思っておりますので、この2点はこの報告書でも少し太字にしてもいいのかなと思った次第です。

本当であれば、18ページの私個人的には場所はここという議論が出ましたと書いていただきたいと思います。それが難しいということでしたら、13ページ14ページのこの2つが、この委員会でも場所という点では大きなテーマかと思えます。

もう1点は、5ページのスタジアム整備のコンセプトのところで、地域の活性化、にぎわいの創出以下、6点記載いただいておりますが、これは第1回の時に私自身も申しましたし、他の委員からもご意見あったように思いますが、第1回目ではドームという議論もありましたので、サッカー、ラグビー以外の、バドミントン、バスケットボールの将来の姿としてどうするのか、サッカー場の中に入れるというのは、隣に付けるのかもしれませんが、最初の頃はそうした議論もあったように思っておりますので、このコンセプトのところに将来の秋田の様々なスポーツシーンの表現の場のようなところを、球技名まで書いていただけたら嬉しいのですが、その点にも付言をですねスタジアムの議論の会ではありますけれども、このスタジアム整備の議論をきっかけとして様々な複合化・機能への議論をこれからこの秋田の中で議論していくんだというメッセージがあってもいいのかなと思います。

3点目は、私申し上げなかったことではありますが、こういう委員会に出席させていただいておりますと、整備目標やスケジュールを記載している委員会がほとんどでして、今回中間報告書を拝察させていただきまして、いつまで造るという部分を見いだせなかったものですから、もし書けるようでしたら特にJのライセンスの問題が出たと思っておりますので、いつまでにスタジアムを造ろうとか、この委員会としてのスケジュール目標があっても良かったのかなと今更でございますが付言をしたいと思います。

委員

まとめありがとうございました。最後の18ページのところですが、やはり私も土の上の屋根は重要だと思います。先ほど委員からもありましたけれども、日本全国と同じスタジアムという発想は秋田であってはいけないんじゃないかと、雪国ならではのスタジアムを提案していくということが、逆にいうとこの検討委員会が言っても良いくらいで、日本の雪国のスタジアムはこうあるべきというのを秋田が発信するぐらいの方向性を持つべきで、そう考えた時には屋根があるというのは絶対だと思います。委員がおっしゃられたように、今は屋根を開けなくても育つ芝とかが開発されていますし、サッカー界の大きな流れも人工芝ができるという国際的な流れでもあります。そう考えれば人工芝ということで屋根を開閉したらお金が掛かるということであれば閉じてしまって、秋田の人がその空間をどう使うか、より多く使えることを目指して造るべきではないかと思います。そういう意味で、もっと前向きな表現が必要なのではないかと思いました。

先ほど、中心市街地の中心というところで、多分こちらに住んでいる方は、中心という八橋だという発想があるかもしれませんが、東京から来ると中心市街地の活性化イコール固有名詞で、中心市街地にぎわいを創るというのは全体的な流れであるので、それが八橋なのか駅前なのかは僕は分からないので、この後で建設場所は市街地にするのが妥当であると書いてありますから、中心市街地というのは固有名詞として使ってもいいのかなと思います。これから郊外型でモールを創るというのは、おそらく車を運転できない高齢者が多発してくるのでバスを回さなければならなくなる状況にこれからなるんです。ということは車社会と書いてあること自体が遅れてきている。おそらく秋田は誰かが運転して無料バスのようなものを回さない限り、郊外はあっという間に廃れていくんです。ということは歩いて行ける中心市街地で数少ない交通の便の良い所に住むということになってくるはずで、そうなることを長い目で想像すれば、別の市街地、もしくは郊外でという議論はあり得ないのではないかと思います。

これは私の秋田のイメージかもしれませんが、そうでなくて秋田は人口も増えて発展するんだと、市街地拡大だということであれば別なんです、そうは到底思えない。なのでもっとコンパクトに屋根付きで全天候で365日誰もが体を動かせる空間で、もっと楽しめる空間だということを言ってもらいたいと思います。また、最近このスタジアムやアリーナの仕事をしていますと、急激に日本のスタジアム・アリーナに関わる建築家や国の関係者のイメージが変わりつつあります。参考になるのは、7ページの施設内の物販等のイメージ図というところです。つまりスタジアムやアリーナは、スポーツをする所とイメージしてしまいましたが、最近中心的な場というのは回りの空間なのではないのかという議論がなされています。ここは完全に屋根が出来て

いますから、雪が降ろうがみんなここに集って、オフィスがあつて区役所があつてとなれば、必ず人が出てくるようになりますし、こういった事例は土地の少ないシンガポールでもこういうのをつくって、空いた空間にアリーナや体育館、スタジアムを造るような、体育スポーツ施設ではない発想を提案することが大事なのではないかと思います。これが国の最先端の流れなのではないかと思います。

委員

2点ほどお願いします。18ページの3の中心市街地のにぎわいの創出のところです。中心市街地か郊外かのところで、中心市街地に反対しているわけではありませんが、この前の議論の中で委員からご意見をいただきました八橋であれば民間投資までは呼び込めるというストーリーは、私個人的には理解しやすいですし、その分公的負担が少ないとなれば県民にも説明しやすいと思います。あるいは整備の上でコストをできるだけ抑えられるという意味でも中心市街地が相応しいという理由であれば、割と納得はしやすいと、この中でも話がされたと思うのですが、3番中心市街地のにぎわいの創出の中に利便性や収益等を考慮すればという一文があるのですが、利便性については近いは近いのですが、実際にアウェイの方々やサポーターの方々が来られて、公共のバスで運んでどれだけピストン輸送で対応できるのか、その際の道路の渋滞だとか地元住民にどれだけ負担を強いるのか、目に見える負担を強いるのかという話はなされていなかったと思いますし、中心市街地だからこそういった収益が期待できるというお話と、確固たるストーリーの話が展開されているようには思わなかったもので、この2つの理由でと言われれば少し違和感があるのかなと思います。

特に収益というところの話をつなげると、プロフィットセンターを目指さなければならないという中で、例えば産業連関表を用いた経済効果という話が出てくるかもしれませんが、他の条件を固定してどれだけ需要が生まれるのかという皮算用的な部分もどうしても出てしまうので、あまり広くこんな利益もあります、単にお金だけではなくて、いろいろ目に見えない利益もありますというものも全部含めてしまうと、本当の利益って何だろうというところが薄まってしまうので、スタジアムによってこういう利益が出るんだというストーリーをセットで頂けると、収益等を考慮すればという部分は納得できるのですが、今のままでは納得しづらい部分があります。

もう一つは、2番の本県に適したオリジナリティあふれるスタジアムというところで、秋田県は高齢化先進県ですから高齢者対策は大事だと、もちろん非常に大きな問題なのでこういった書き方になるのは理解できるのですが、6ページあたりの5つのコンセプトの中で、コンセプト3の多世代が集うスタジアムというところで、全ての世代がといったコンセプトがあつたにもかかわらず、2番のところでやっぱり高齢者にフォーカスを当ててしまう。特に他の建物であればここまでこだわらないのですが、スタジアムは基本的にサッカーという視点になっていて、高齢者対策というところは

個人的に結び付きづらい所もあるので、高齢者だけという見え方になってしまうと、18ページの書き方になってしまうとちょっと違和感があって、やはり多世代という言葉があった方が。多世代という言葉は入っているんですが、スポーツに特に関わりのある若者世代にもう少し寄った書きの方が個人的には収まりがよいのかなと思いました。

普段から私が感じていることとして、秋田県は高齢化対策の先進県でいろいろな事をやられていると思いますが、子ども対策というのは少子高齢化ですから、少子化と高齢化がセットになって少子高齢対策だと思うので、少子化の方ですけれどももちろん保育園の無料化だとか医療費の無料化だとかをやられていると思うんです。ただ他の県を引き合いに出してになりますが、隣の山形県であればそれぞれの市で子どもが自由に遊べるような施設の中で自由に遊べるとか、ボールプールが沢山あるだとか、山形市なり東根市なり天童市とかで造っていたりする。そう考えると高齢化対策も大事ですが少子化対策もある程度見えるような形でしていった方が、少子化対策にはなるのではないかなというように、個人的には普段から思っています。そうしたことを踏まえると必ずしも高齢化だけに寄せるということが秋田県が抱える問題に向き合う中で相応しいのかというところで、少し懸念があります。

委員

私は財源の問題が大きくあると思います。行政の方でどれくらい出せるのか。これは今直ぐ回答は出てこないと思いますが、それによって、先程から屋根付きの話が出ているわけですが、それが出来るのか出来ないのかということもあるでしょうし、維持管理費がどれくらいかかるのか、規模にもよるでしょうし、どういった機能を付けるかによっても変わってくるでしょうし、なかなか一律に出しがたい部分があるでしょうけれども、仮に行政が主体にやった場合、多分、起債を借りて償還しなければならぬ部分と、それから運営上どれくらいかかるかなければそれが指定管理料として、また、民間主導となればそれが指定管理になるでしょうし、その費用がどれくらいなのか、あるいはPFIを使うとなれば業者が居るのか居ないのかになるでしょうし、仮にあったとしてもサービス料としてサービスの対価としてどれくらいまで出せるのか、その当たりが焦点になってくると思います。

その中には多分、起債で借りたのと同じレベルでの建設費の償還費のようなものが大きなウェイトを占めるのだらうと、それが何処までであれば耐えうるのか、そういった部分がないので、なかなか方向性としては造るのは良いし造るべきだと私も思うし、機能としてもいろいろあった方が良いのは決まっているが、年間の使用がどれくらいあるのか等々考えながらやっていかないと、大変な事になりかねないと危惧しております。ただ、この検討委員会の中で、まとめることはなかなか厳しいんだらうと。だとすれば、こういう意見があった、財源も含めて検討すべきだ的な言い方にしかな

らないのではないかと考えています。

私からは、この報告書の中で一つだけ言っておきたいこととして、出来れば直してもらいたいのは、5ページから6ページに書かれております。5ページは全体をまとめたものだろうと思います。6ページで、こういう意見が出たというのは承知しているし、大方の皆さんの意見となればこういう書き方になるんでしょうが、私からは地域の活力というのは、例えば賑わいを生むとか多世代が集うなんかを包括するのではないかと意見を出したのですが、大方の意見が5つだということであればこのままで良いのですが、全体をまとめたコンセプトの5ページで、秋田がかかえる少子高齢化や人口流出などといった諸課題の解決についてと書いてありますが、厳密に言うと少子高齢化の課題の解決というのは、少子高齢化でなくすということなので、そうしますと移住定住人口を増やしたりとか、若者の流出を抑えたりとか、それが究極の課題解決なんだろうと思います。そういう意味からするとこの書き方というのは、大きすぎないかという思いが私にはあります。例えば、スポーツを通じてにぎわいの創出や交流人口の拡大などが地域の活性化に貢献するスタジアム的なところで良いのではないかというのが、私の意見であります。

委員

今回からの参加ということで資料を十分確認できなく恐縮ですが、まず要綱等を見させていただいて、スタジアムのあり方を検討する会だということをそのまま承知しておりますが、であれば5ページ6ページに素晴らしいコンセプトが出ておりますので、これを基に皆さんである程度決められているのかと、正直資料を見た感想です。これを基に未来の明るい秋田を実現するべく、そしてブラウブリッツ秋田さんが優勝ということで、J2昇格するための整備をどんどんしていくために、希望の光を絶やさないでいくのが、この委員会のあるべき姿であると思います。

委員

全体としまして予算がないというのは分かるのですが、そもそもこの議論はブラウブリッツ秋田さんがゼロからトライして結果が出る中で、それを応援しようというのがあって、逆に秋田にはいろんな課題はあるけれども、逆にこのチャンスを利用して街全体を良くしようというところだと思います。そう考えると、秋田は何をやっても課題があるのは分かっているわけですから、この場であまり課題を膨らませて書くよりも、ここは明確な意思を示すことの方が大事だと思っています。皆さんいろんな課題を考えていらっしゃるんで、逆にこういう検討をして我々はこれを利用して秋田を創っていくんだという思いをきちんと持てるのが、一番必要だと思います。そう考えると、やはりまずドームにしないと我々観光業を考えても使い道が見えてこない。そうすると本当にこれで稼げるのかなと思いますし、あとスポーツの聖地を持つこと

によって秋田の子どもたちが、もっともっとスポーツに取り組む環境を創るとか、いろんな県外のチームを誘致することを考えても、やはりドーム型にすることの方が価値が高まると思います。

もう一つ、市街地、中心市街地と意見ありましたが、秋田市さんの立場を分かったうえで、ただ、活用を考えるとただの市街地ではだめで、やはり中心でないといけないと思いますので、総意で書くのか多い意見で書くのか意見があると思いますが、私は明確にこの場ではもし本当に来年のブラウブリッツ秋田のJ2を応援し、そしてこのチャンスを活かそうというのであれば、はっきりとドーム型を中心市街地に造るんだと、そしてそれが秋田を再生するシンボルとして活用していくんだと、お金を造るんだという意味を示すべきだと思います。

委員

先ほど交通の便ということで何点かご意見ありましたが、やっぱり郊外のバス路線の無いところにスタジアムが建ってしまうと貸切という状態になってしまいまして、そうなればそのお金は誰が払うんですかということになってしまいます。例えば、ブラウブリッツ秋田さんからお金をもらってしまうのかということもありますし、そうなると貸切料金は今高くなっておりますので、現実的には厳しいのかなと思いますので、バス路線が通っているところだと、増発便という形で乗っていただくお客様から料金をいただくという形になりますので、やはり交通の便という意味ではバス路線が走っているところが、また駐車場の問題があるじゃないかという方もいらっしゃると思いますが、やはりそういう時にこそ公共交通機関を使っていたきたいと思います。

それと委員からありましたように、市街地ということで、バスケットの方もありますので、バスケットにしか興味のない人でもサッカーを見てもらおうと、まず、どっちもやっていますので昼はサッカーを見て、夜はバスケットを見ましょうかとか、スポーツ全般で捉えていけたらいいのではないかと思います。今回ブラウブリッツ秋田さんが優勝しまして、議論も一つ大きいステージに正直行ってしまったと思いますので、あくまでいろんな可能性を探って議論していければ良いのかなと思います。

委員

事務局的な話の部分もありますが、今まで委員の方々の意見を伺ってしまして、そのとおりだなというところも感じております。このスタジアムに関しては、この検討委員会で造るとすればどのようなスタジアムが良いのかというようなことですので、具体的な話をより深めずに理想論といったところで、いろいろな話をしてきました。私自身も考えますけれどもスタジアムをただ単にサッカーができる、ラグビーができる、スポーツができる、そういうものではなくて、やはりスタジアム機能

だけではない多世代が集い、ショッピングモールが入ったり、人が集って秋田が元気になる。当然のことながら、このスタジアムは将来に向けた街づくりということが、一番根底になければいけないのかなと考えております。この辺に関して、この報告書では具体的に書き込んでもいいのかなという思いも今感じております。

また、ずっと話題になっているドームの屋根についてですが、この資料の25ページの一番上のところにありますが、どうしても事務局としては今現在のJ基準をどのようにクリアするのかということを、どうしても先に考えてしまう部分があります。ただ、お話があったように、人工芝の可能性もあると、それから屋根を付けても天然芝が育つような場合もできると、当然財源がどのくらい、多額の経費がかかるわけですので、それがどれくらいまでということもありますが、是非、検討の枠からは外さないと言いますか、要検討することも必要であると当然ここにはあるべきかなと感じております。いろんな形でご意見をいただきまして中間報告書という形になっていますが、委員の方々のご意見もしっかりと組み込んだ中で、作り上げていければと考えております。

委員

18ページの提言についてですが、何処がどうだというわけではないのですが、この検討会が始まった時点でスタジアムを整備したいというのは限られた人達だけだったと思います。検討会を進めている間にブラウブリッツ秋田さんが優勝しまして、マスコミさんがこの検討会を取り上げてくれたこともありまして、今スタジアムの問題については県民挙げての認識になっていると思います。昨日の新聞にも報道にもありましたし、秋田大学さんではスタジアムの候補地に名乗りを上げる動きもありましたし、正に県民運動という形に、スタジアムを造ろうという機運が県全体に広がってきていると感じております。正に旬な話題でございますのでこの熱い思いをこの提言の中に少し入れてもらえれば、その熱い思いは間違いなくこの検討委員会の副産物的な要素でありますけれども、入れてもいいのかなと思っています。

委員

これまで3回という形で委員の皆様からご意見をいただいて、それが中間報告もしくは最終報告という形で今回の状況になっているわけでありまして。ここでいろんな意見が出ましてコンセプトなど当初考えやってきたところでありまして、立地場所などについては細かい点も出されているような感じがします。ただ、委員の中でも多数意見というものはございますけれども、やはり広く県民の方々に理解していただく方向性を持つていくためには、あまり絞らないような形でこういった意見もあります、少数ですけどもこういった意見もあります、こういったことをやることによってこういう負担もありますと、そういった形のいろんな事を県民の皆様にご報告できるような

報告書の形で、それを踏まえて今後細かいところの話をできるような報告書にしていただければと思っております。

委員

2点ほどお願いしたいと思います。1点目はドームの関係でございます。やはり夢のあるスタジアムというものを考えると冬でもできるドームというものは、非常に魅力を感じるところでございます。一方で、建設コストや後年度の維持管理経費、こういったものがまだ見いだせない中で、なかなかそういった事を強く打ち出すことも難しいということがあると思います。私個人的な意見としては、両論併記というところの夢のある話で、一方で今の秋田の現状を考えるとコスト面の課題もあると。こういったところを併記した形で留めていただいたほうがよろしいのかなと、方向性のどちらかをここで打ち出す場ではないのかなと個人的には考えております。

もう1点が18ページの4番のJ2基準を満たす規模・機能のところ、こちらについては委員から意見がありましたが、J2基準を満たすというところだけでいいのかと、J1を視野に入れたという表現は11ページにありますけれども、提言においては視野に入れたというところを、ここにも入れておいた方が良くはないかという意見であります。特に心配であるのが、J2からJ1に上がるというのも、今回冬秋に決まって冬春までの間に、もしJ2規格で造ってJ1規格に上げるとすれば半年足らずの中で整備をする必要があると。この辺りが果たして準備段階のところ、可能かどうかというところがあるかと思えます。その点も含めてJ1も視野に入れ、見通した中で提言ができればいいのかなと思えます。

委員

私の方から中間報告書の18ページの総論の部分では、課題はそれぞれあるにしても基本的な方向については理解できるものと受け止めております。順番に申し上げますと18ページの大きい1と大きい2につきましては、全県的な活性化であるとか県全体の課題を解決するといった相対的な全県を見据えた位置づけでのコンセプトということでこれは適切ではないかなと思えます。課題があることを前提に話しますが適切ではないかなと思えます。それから3点目の設置場所は、先ほど私が発言したことで委員から発言をいただきまして、なるほどと思いました。誤解のないように発言させていただければ、3番の中心市街地でのにぎわい創出というのは、これは目的だと思いました。その中の文章が建設場所の文章になっていたのも、私、ちょっと誤解が生じる可能性があると思いましたので、目的を否定する気は一切ございません。やはりこの市街地に、郊外ではなくていただいたご意見のようにこれからの将来を考えれば、郊外ではなくて市街地に、その中でも特に中心市街地や街なかに効果があるようにと読んでいただけるのであれば、この方向性は同じだと思っておりますので、私、文章

だけで建設場所が誤解されないかなということで発言しましたので、その点は補足させていただいて誤解のないように、方向性は同じという事で考えたいと思います。

それから4点目の開閉式ドームは、様々な意見があると思います。行政的な立場からすれば、コストを考えますと課題は大きいかなと思いますが、この委員会の立場であれば両論併記もあると思います。5番の民間活力については、これは公設民営の方向性や民間資金を組み合わせた資金調達という方向性は必要で大事だと思います。ただ、実際の財源というのは大きい課題だと考えております。

委員

一番気になったのは第3章の関係で、あるべき姿というものを求められた中での話で、このようにきたと思います。私自身は、先ほどの委員と同じような考えを持っています。財源に触れなくても良いという話で今までできましたので、いろいろなアイデアとか、それから明記すべきという話になっていますけれども、秋田県の財政そのものを見た場合に、この10年後にスタジアムに掛かる経費そのものに対して対応できるのかできないのかということが一つ非常に不安です。

今、委員から言われましたが、やはりドームの建設のあり方そのものを必要と、それから、こういうふうな状態でできないということを明記するべきだということと、それから、文章的には健康寿命日本一という事で、県の方で謳っているんですけども実際スタジアム建設の中で、こういうふうな物ができるのかどうなのか、地域の活性化が秋田県全体に求められることができるのかどうなのかということも疑問点の一つとして挙げられると思います。やはり、私たちはこの地域活性化それから健康寿命日本一というのは地道な取り組みでやっていかなければ地域でできない課題ですので、これとスタジアム建設と一緒に結びつけていくのは無理なのかなという感じがします。

委員

この会も4回で皆さんのご意見も出尽くしたと、出尽くした訳ではないでしょうが、これ以上続けても必要ないんじゃないかと、今回で皆さんの意見を集約して出すと。それから、私個人ですが、今一生懸命このように委員の皆さん4回集まってくれて、今話たようにしている時、秋田大学のグラウンドの話がありましたが、私は非常に信義に反すると思います。我々何のためにこういう会議をやっている時に、場所、建物はこうだの誰が受け取ったのか知らないけれども、私の立場からすれば、信義に反します。短い時間でしたけれども、議論できたことが楽しく、これからもサッカーを応援していきます。

委員

私は5ページの上から3行目の検討委員会としてはからずっとありますが、この新

しいスタジアムを整備補修ではなくて新スタジアムの建設を前提に議論を進めるということを決めていただいたことは、私は良かったと思います。それから15ページの検討委員会のまとめで、秋田市の市街地が望ましい。これは、取っかかりはブラウブリッツ秋田さんのJ2昇格のための諸条件のクリアということがありましたけれども、いろいろな県の施策、国の施策、コンパクトシティ等々いろんな事がございますので、ここにありますとおり秋田市の市街地が望ましいと、この2つを決めていただいたといえますか、その流れにあるということは結構だと思います。後は、財源の問題をみんなで手の内を県の方で、あるいは市の方で明かしてくれると、もっと詰まっていくなじゃないかと思いますが、これ以上無理だとすればこういう事でいいんじゃないかと思います。

委員

皆さんからご意見が出ていますとおり、報告書の17ページまでは個別具体的に追記だとか有る無い、逆にただ現実的な賛成、反対があって良いと思うんですけども、最後の18ページだけは提言と書いている以上は、こうすべきだという、この検討委員会で話合っ大筋の次のステージに行くというとは何ですが、個別具体的な絵を描く部分ですね。例えばお金がどれくらいかかるだとか、運営だとかというのは、ここではないと認識しておりましたし、提言という言葉を使う以上はマイナスと言いましょるか、打ち消すような否定的な事ではなくて、率直に申し上げると提言としては整備すべきだと、そういうところをはっきり明確に打ち出した上で、規模、運営、財源だとかというのは、また別の所で話せるようなところでいいのではないかなと思っています。

ですから18ページにつきましては、物がありますけれどもこの検討委員会で出た大方の理想的なところ、例えば街がこう変わっていくというようなことも付け加えていただいて、この18ページに関しては是非やることを前提に、やることを明確に新整備の方が良いということを書いた上で、1番から5番までの具体的なところの大筋の事を書いていただきたいと思います。

委員

委員から言っていたように、今秋田県の皆さんは本当にこれに関し注目していただいているのかなと思います。私秋田に11年おりますけれども県民の皆さんが行政主体で造る建設に対してここまで大きな注目を集めていることって、私が11年居た中では無かったのかなと思っております。その中で印象的だったのは、新成人の方がこのスタジアムに関して必要だと話していただいたり、中には福祉に使った方がいいんじゃないかというような、やっぱりこういう若者がこういう事に向き合える物があるということも非常に重要なのかなと思ったり、中には少しの負担があってもいい

んじゃないかと、しても良いから造るべきだということが言われていたり、街なかでも様々な意見をいただいております。そういう事を考えますと、私このあり方検討委員会は名前のとおりあり方なんです。あるべき姿、あるんだったらこうあるべきだというような形のものを、この検討委員会で話をすべきかなと思って、委員の意見に反するようなことになってしまうのですが、否定的な意見というのはこの報告書に載せていただいてという話がありましたけれども、私はそれは必要ないんじゃないのかなと、正直思うところがあります。

報告書の中の15ページに、山形のことに際し、昨年の6月に民間の会社を立ち上げたという事を書いてあります。今回ここに書かれているのは建設は行政主導でと書かれております。資金に関しては民間の力も導入して、運営に関しても民間が運営することも視野に入れてというような事も書かれています。私一番の大きなこれまでの日本社会のあり方の中で問題というのは、使うべき人達がやっぱり知恵あるべき人間達、収入、支出といった部分に着目すべき、している人間達が建設段階からしっかりと意見を言えるようにならないと良い物はできないんじゃないかと思っています。ですので、この行政主導で建設となっておりますけれども、ここに対して民間の知恵、知識、そういったものをしっかり入れなければおかしいんじゃないのかなと。行政が造って結局運営は民間に任せました。どういった事が起きているかというと、ノーザンハピネッツさんでも今のアリーナであったりというのは、動線がしっかりしていない、もっと稼げるのに稼げない。もっと稼げるというのは人が喜んでくれているということですから、人が幸せになれるのになれない施設が出来上がってしまうというのは、決して今後あるべき姿ではないんじゃないかと思っておりますので、この行政主導でということに関しても、民間とタッグを組んで建設含めて資金、運営をやっていくというような形で報告した方が良いのではないかと思います。

一方で、スピード感といったものがあります。国自体も確かPFI法が今回変わるという形もちろほら聞いております。議会を通さなくても民間が指定、指名できるような話も聞いておりますので、国自体が今このままでまずいいんじゃないかという形で、スピード感をもってどんどんやっついこうという流れになっているにもかかわらず、未だ地方がスピード感を持ってないというのは、持たないというのは、私はおかしいんじゃないかなと。逆に言うところのチャンスに秋田からそういった物をどんどん発信して、秋田から全国の成功モデルを一つ創るというような形を、皆さんと一緒に、これを民間とともに行政とともに、一緒に創っていてもいいんじゃないかなと思っております。

先ほど委員から人口流動の問題であったり、それこそ高齢化の問題であったりの話があつて、ここに付けるのはおかしいんじゃないかというお話がありましたけれども、私はやっぱり25年Jリーグを見てきて、25年間でJ1J2でいうと40チーム、40地域が地域活性を成し遂げているんですね。それに関してJクラブ、スタジアム

が中心となって高齢化に対して健康であったり、若者の定住であったり、魅力溢れる街をつくる一つのコンテンツとしてあるものでありますから、確かに皆様がおっしゃられるのも当然なのかなと、知らないのも当然だと思います。やはり山を越えなければJ1を見れないのもこの地域の特性でありますし、情報が閉鎖的だということもこの地域の特性でありますので、知らないのも当然なんですけれども、そこで可能性を無くす事というのはちょっとあれなのかなと。地道な作業をしてきたという、地道な作業だということも一つだと思います。人口流出、高齢化、少子化、これも一つの地道な作業の一つとして捉えていただければなと思っています。

最後に、17ページに今回国から私たちが委託を受けたものが書かれてありますけれども、コンセプトの中でオリジナリティあふれるスタジアムというところがございます。本来であればスタジアムの提言といった部分でいうと、こうあるべきだと、秋田ならではのといったことを、もっと発信しなければならないのかなと思っている中で、このオリジナリティあふれるスタジアムというものに対して、僕は今回の調査をしっかりしていきたいなと。その中でスポーツの産業化を秋田から発信していこうと。ここにスポーツモール秋田と書かれておりますけれども、これはどういった事かといいますと、ちょっと具体的に話しますと、今秋田県内にあるスポーツコンテンツを考えてみてください。サッカーがあります。Jリーグというものがございます。Bリーグというバスケットがございます。今回北都銀行さんのバドミントンもあってワールドカップ優勝という功績を残してくれました。また、ラグビーも秋田にあります。こういった秋田にある財産というものを集約して、皆さんが、県民の皆さんがスポーツを見ても、しても楽しめるような施設づくりといったものをしていきたいと思っていますので、10年後にアリーナの改修、建設というものは一昨年お話があったと思うのですが、であれば10年後のことも考えて、建設に関してもやっていった方がいいんじゃないかなと。それこそバドミントン、ラグビー含めて、やっぱりみんなで相乗効果を出せるような施設づくりというものは、秋田の魅力の大きな大きな一つになっていくのではないかなと。その魅力があるが故に、人口の流出の問題であったり、いろんな問題も解決されるんじゃないのかなというふうに思いますので、それは可能性の一つとして、そんなものはやっても高齢化なんて変わんないよ、人口流出なんて止まんないよという話ではなくて、やっぱり地道な作業の一つとして捉えていただきたい。結果というのは積み重ねだと思っています。

我々も今回の優勝は昨年のチームだけが良かったからの優勝ではありません。それは3年、4年前から始まって、1年1年コツコツとやってきた積み重ねがこうやって結果となったわけですから、そういった社会問題の別の結果も小さなことの積み重ねが結果として最終的に出るのかなと思っていますので、是非その点はご理解いただければと思います。

委員

サッカー協会の立場から申し上げます。まずもってブラウブリッツ秋田の大活躍、優勝本当におめでとうございます。ただ、残念ながらＪ２昇格という選手にとっては最もモチベーションとなることが出来なかった。本当に残念であると思っております。そういう中で、今、岩瀬社長兼強化部長が選手との契約をしている中で、おそらく選手方も来年のＪ２昇格ということを見て契約していることと思います。そういう意味では、陸上競技場の整備を秋田県、秋田市によって整備し、Ｊ２申請をするという意味では、本当にありがたいと思っております。

ただ、今選手の中でもキャプテンをはじめ、高齢な選手も大変失礼ですがおります。この選手方が秋田のために頑張っているわけですので、できればこの選手のためにも、新しいスタジアムに立ってやっていただきたいという気持ちでいっぱいでございます。

あと、いろいろドームとかの話がありますがけれども、先ほど、委員がおっしゃいましたけれども、是非、日本の北国のモデルとして新しい方向性を示すようなスタジアムであってほしいという思いであります。通年使用できるドーム式、あるいは膜式のそういう屋根を覆うような、そういうスタジアムを造っていただきたいと思っております。こういうスタジアムを拠点にして、にぎわい創出、人口減少のためにも是非このスタジアムを造っていただきたい。できるだけ、スピード感をもっていただきたい。そういう思いでいっぱいあります。

委員長

ありがとうございます。今、出席されている委員の皆さんからご意見をいただきました。私、事務局からそれぞれ回答といいますか説明をもらう前に一言、言いますと、私もあんまりウイングを縮めるべきではないのかなと、この検討委員会としては。私自身の考えとしては、あまり自分達から取って切っていくって、正方形にしていくというよりは、多少ごつごつでも、それはしかるべき所、我々が幾ら言ったところで造る側の方は、どうしても現実問題に立ちやいますので、そこを最初からあり方検討委員会で、かなりの大多数の意見として出ているものであれば、それは委員会としての提言としては取り上げるべきではないのかなと、私自身は思っています。委員から一通り意見をいただきましたけれども、それに対して考え方なりご説明を事務局の方からお願いします。

委員

その前にちょっとよろしいですか。これで終わりかもしれないということだったので。隠しておこうかなと思ったのですが。筑波大学でアリーナを担当している者として、今の流れとして実はスポーツ施設というのは、情報を、コンテンツを、クリエイトするスタジオだということを筑波大学アリーナは言おうとしています。この発想っ

ておそらく既存のメディアの構造の改革だとかということと全部連動してしまして、是非、新しいコンテンツってスタジアム整備のコンセプトで触れたのであれば、コンセプト5のオリジナリティあふれるスタジアムのところでは、オリジナリティあふれるコンテンツを創造するスタジアムということにしてほしいなと思います。高齢者、健康寿命日本一ということコンセプト5で唯一書いているんですけども、そこに是非、秋田発のコンテンツを発信するスタジアム、スタジオとしてのスタジアムとして、スタジオを入れてしまう、この言葉って未だ誰も使っていないくて、筑波大学アリーナを最初にしようと思っていましたが、ここで使ってもいいんじゃないかなと思いついて、終わりだったらこれを使ったらいいんじゃないかなと思ったので。是非そういう言葉を入れていただくと。

実は僕たちはSNSを使って発信するわけですので、スタジオであれば今既存のメディアで秋田放送さんとか、そうかもしれませんけれども、これからはお客さん一人一人が情報発信源なんです。その人達が全員一度にアクセスしてもパンクしないwifiを入れるとか、行った瞬間にそこでばんばん情報が上がってきて、それをシェアして、結局それを見た人が秋田って気付いて、来るというようなものを創るスタジオが実はスタジアムなんじゃないかなと。これはすごい発想の転換なんです。是非入れた方が。最後かなと思いついたので。

委員長

非常に貴重なご意見ありがとうございました。なかなかこういうご意見を聞く機会がなかったので委員には最後の最後に持っていた秘宝だったかもしれませんありがとうございます。それでは事務局お願いします。

事務局

様々なご意見をいただきましたことについて、この後、追記あるいは書き方の変更を行っていきたいと思っております。報告書については、皆様方のご意見全てを盛り込むということはページが限られておりますので、できないところもありますが、会としての一定の方向性を示しつつも両論併記であるとか、可能性を無くさないような表現にして調整していきたいと思っております。委員の意見が表れる報告書となるようもう一度最後調整していきたいと思っておりますのでご理解くださるようお願いいたします。

委員長

非常に抽象的な話ですが、皆さんよろしいですか。特に話を戻すと屋根の話とか、そういう使い方の話とかに関しては、皆さん気になさっていると。そこで、あり方検討委員会でやっぱりみんなが望む部分は望む、提言した方がいいんじゃないかと、あるいは委員がおっしゃられたように財源は当然つきまとう問題ですけども、どうブ

レイクスルーしていくかについては、我々委員会のテーマだったかもしれませんがけれども、その辺までやっているといつまでも進めないような部分もありますので、是非とも、事務局が言われたように両論併記の部分もあるかもしれませんが、私自身も提言の部分というのはマイナス的な表現というのは、どうなのかなという気がしないわけではないので、そこをしっかりと考えて、正に今言われたように委員の思いが詰まっているような提言あるいは報告書にしていいただければと思います。

この素案については、皆様からいただいた意見を集約してあり方検討委員会の報告書という形で仕上げたいと思っております。今言ったような形で事務局には調整をお願いしたいと思います。ここで事務局にお伺いしたいのですが、これまでの事務局側の説明では、この報告書というものは、県の２月議会に中間報告書という形で説明し、議会から意見をいただくというように理解しておりました。ただ、先ほどあいさつの中で、振興監の方から委員会の方の考え方が良ければ最終という形になっても、それはそれで対応していくと。また、中座で退出されました委員は、まずこの委員会として出すべき部分というのは網羅したんじゃないかと、言い切ったんじゃないかというご意見もあります。今後、こういったことも踏まえて現状のスケジュールでもいいんですが、何かあれば教えていただきたいと思います。

事務局

当初、２月議会に報告するという事で委員の皆様の説明し、その計画で進めておりました。そうした中、先般、議会側から、Ｊ２クラブライセンスの申請期限が６月３０日までと定められているようだが審議する時間を十分確保するよう意見がありました。また、報道等でご存じかと思いますが、知事も２月議会前に方針を示すことが必要と話しております。今後のスケジュールですが、この後早急に報告書をまとめて、知事に提出、それを受けて２月議会前の今月中に何らかの方法で議会に示していくといった流れになろうかと考えております。

委員長

ありがとうございます。繰り返しになりますけれども、前回の３回目の検討委員会の終わりの方で、私、これまでの３回の議論で一定程度あり方検討委員会の出すべき結論というのは出てしまったのではないかと、それから、仮に今日が終わりとした場合も含めて、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいという事を言ったうえで、皆さんからご意見をいただいて今ここに至っていると思います。今回の素案に関しては、多少といいますか修正はあるのかなとは思いますがけれども、委員会として、あるいは委員の皆様から出してもらっている意見というのは、ほぼ出尽くしているのではないかと考えております。

今のご説明のとおり当初の説明では、この委員会は２月議会に中間報告を行いまし

て、その後、議会からの意見を踏まえたうえで、新年度に更に議論を深めていく予定であったと思いますが、あり方検討委員会での議論は表現的なところはともかくとして、一定の方向に集約されているといえますか、集約していると私自身は理解しております。そういうことを踏まえて、今回をもってあり方検討委員会を一旦終了して、今後はJ2ライセンスを視野に入れた具体的な構想を検討する協議会、あるいは委員会というステージの方を立ち上げてもらって、移行していくべきではないのかなと考えております。

また、皆さんご存じでしょうけれども、JリーグがJ2クラブライセンスを認める条件として、新スタジアム整備の自治体の具体的な予算が必要になるということを聞いております。このあり方検討委員会は県が予算化し進めてきたものでありますが、今後、より具体的な構想または協議を進めていくとすれば、この検討委員会を一旦終了し、新しい体制に引き継いでいくべきではないかと考えております。この場面で改めてJリーグのJ2ライセンス取得条件について、委員に改めてご説明お願いしたいのですが。よろしいでしょうか。

委員

単純に申し上げますと、今シーズンに取得というのであれば、既存施設の八橋陸上競技場の照明設備、大型映像装置、ドーピングコントロール、大きく分けてこの3つの改修が急務であると。諸々細かい部分もありますけれども、それは我々クラブの努力で可能なのかなと思います。大きく分けるとまずはこの3つを改修していかなければならないという形です。そこで、もう一つは、結局八橋陸上競技場は屋根がございません。観客席を3分の1以上覆わなければならないというものが、ライセンスの基準になっております。ですので、ここは未充足という形に競技場としてはなっています。そこで求められているのは、新設といった部分が、いつ、どこに、どのような形で、誰が造っていくのかというようなことをしっかり示すことという形で、大きく分けると2つなのかなと思っています。

また、私たちが果たさなければいけないのは、それこそ2位以上の成績、また、現ルールに基づきますと平均観客動員3千人ということもござimasので、昨年3千人に至っていません。まだ、2,300人程でござimasので、ここに関しては後援会の会長もいらっしゃいますけれども、スポンサーさん含めてこれに対してしっかり努力して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、クラブから、年間どういった活動をやっているのか、例えば健康増進であったり、高齢者の健康増進であったり、少子化に対して保護者の世代の方々が子育てをしやすい環境をつくるといった部分も含めて、我々が日頃行っている活動というものの活動報告書がありますので、帰りに皆様に1部ずつお渡しいたしますので、お時間のある時に是非目を通していただけたらなと思います。これは、Jリーグクラブが、

全国で様々やっているオリジナリティあふれるものなども記載しておりますので、目を通していただけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

委員長

ありがとうございました、ただ今、委員からＪリーグの状況について、あるいは、来年度に向けてどうしていかなければならないのかをお話いただきました。皆さんには今までのお話を含めまして、先ほど私が申しあげましたけれども、あり方検討委員会のあり方みたいなものが一旦今回の４回目で店じまいしてもいいんじゃないか、あるいは、そうじゃないだろうと今後もう少し役割があり方検討委員会にあるのではないかというご意見等あろうかと思います。この件に関して、閉めても構わないですし、やっぱり続けるべきだという意見もあろうかと思いますけれども、どなたかご意見があればお願いしたいと思います。

委員

大分このあり方検討委員会であり方といった方向性は示されたのではないかと思いますので、私は委員長がおっしゃられたように、次のステージに行ってもいいのではないかと思います。また、スピード感といったものも含めて、次のステージでどんどんスピードアップして、進めていくということでもいいのではないかと思います。

委員長

ありがとうございます。今、委員から一旦あり方検討委員会は閉じてもいいんじゃないかというご意見がありました。他にございますか。

委員

ご提案ですが、この中間報告書を報告書の形にして、一旦事務局で修正したものを各委員に投げてもらって、それをもう一度最後に委員長の一任ということで確認すればいいんじゃないかと思います。

委員長

今、委員からそのようなご提案がありましたけれども、委員の皆様それでよろしいでしょうか。

※各委員から「異議なし」の声あり。

委員長

他にはご意見ないようですので、そのような形で進めたいと思いますけれども、事

事務局が想定しているスケジュール等、また、今の話を踏まえて何かあるとすれば、教えていただきたいのですが。

事務局

事務局としては、この検討委員会の意見を取りまとめることが役割となっていますので、皆様方の考えを受けまして、今回を持って終了ということで賜りたいと思っています。なお、中間報告を取りまとめるということになっていましたが、中間をとって報告書ということになるかと思いますので、ご了承いただければと思います。また、先ほど委員長からお話があったように、新たな検討委員会への移行ということも視野に入れて、この後、先の事も考えてスピード感を持って対応していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

委員長

ありがとうございます。それでは先ほど委員からお話がありましたけれども、報告書という事で、今日の議論を反映させてもらったものを改めて委員の皆様にお配りしたうえで、ご意見をもらうものはまた改めて、事務局の方にお伝えしたいことは伝えていただいて、最終的な文言調整は、委員長である私のところで事務局とやらせていただきたいと思っています。よろしいでしょうか。

※各委員から「異議なし」の声あり。

委員長

それでは、急転直下でこのような形で、皆様から良い意見、良い提案をいただきました。これを、どうにかして県あるいは秋田市あるいは県民、市民の方にお伝えしたいと思っていますので、そのようにまとめさせていただきたいと思っています。今後、この報告書がどのような形で議会に提出され、どのような意見が出るのかは当然皆目分からないわけですが、我々としてはこういう物を後世に残していきたいと、ただ負担だけを押しつけるのではなくて、創造的なものを残していきたいという部分も含めて報告書にまとめていきたいと思っています。いずれブラウブリッツ秋田の優勝で、先程来何人の方から出ていますが県内ではこの問題に対する思いや機運が高まっていますので、今回まとめる報告書が次の議論に正にスピードアップさせるようなことに繋がるように、期待していきたいと思っています。本日予定していた議題はこれをもって終了しましたが、委員の皆様からこれだけは話しておきたいということがあればお願いしたいのですが。

委員長

特になければ審議いただく案件は終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

事務局

長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。最後に次第の（２）その他ですが、委員の皆様からこの機会にご意見等ございますでしょうか。

事務局

ないようですので、終わりに事務局から一言お礼を申し上げます。

事務局

委員の皆様には大変お忙しい中、検討委員会にご出席いただきまして、また幅広くご議論いただきましてお礼申しあげたいと思います。皆様からは、地域ににぎわいをもたらす交流拠点としてのスタジアムはどうあればいいかという視点で検討いただきましたが、県の未来を考え、県の課題解決にも結び付いていくご意見であったと思っております。事務局では、この後、報告書を取りまとめ、議会に提示してまいりたいと思っております。これまで大変貴重なご意見を賜り、重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

事務局

これをもちまして、第４回スタジアム整備のあり方検討委員会を終了します。ありがとうございました。資料の方はおって送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

以上